

令和3年度第4回 広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城の展示整備に関する懇談会

2 開催日時

令和4年3月22日（火）10:00～12:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

秋山伸隆委員（座長）、城市真理子委員、西村晃委員、上田宗冏委員、金城一国斎委員

(2) オブザーバー

広島城高野館長、本田学芸員

(3) 事務局

広島市市民局 文化スポーツ部長、広島城活性化担当課長、株式会社丹青社ほか

5 議事（公開）

(1) 広島城三の丸歴史館の整備について

6 傍聴人の人数

4人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城三の丸歴史館の整備について【資料1】
- ・第3回広島城の展示整備に関する懇談会 議事要旨【参考資料1】

8 議事要旨

(1) 広島城三の丸歴史館の整備について

－ 事務局から資料1を説明 －

(秋山座長)

- ・事務局の説明に対し御意見、御質問を伺いたいと思うが、資料がかなりの量であるため、展示のゾーニングイメージと施設の外觀イメージに分けて議論を進めたい。
- ・まず、展示のゾーニングについて御意見、御質問があればお願いしたい。

(金城一國齋委員)

- ・ゾーニングイメージの全体の流れはこれで良いと思う。
- ・昨日広島城に行き、現在の展示構成を確認してきた。12ページを見ると、築城前、毛利氏時代、福島氏時代、浅野氏時代、文化と区分けされているが、実際に展示するとなると、行灯型ケース若しくはウォールケースを中心とする回遊型の展示になるのではないかと感じた。現在の広島城の展示は比較的様々な展示手法が混在している印象があるが、新しい施設ではどのような展示手法を想定しているのか教えてほしい。

(事務局)

- ・具体的な展示手法は今後、設計段階で決めていきたいと考えている。展示内容や資料に沿って考えていく必要があるため、現時点で決まったイメージがあるわけではない。このようにした方が良いという意見があれば、それを踏まえて今後考えていきたい。

(上田委員)

- ・今後の高齢化の進展を踏まえた質問だが、エレベーターは一度に何名程度乗ることができる想定なのか。また、エスカレーターを設置する想定はあるのか。

(事務局)

- ・エレベーターの広さについては、今後建築の基本設計の中で詳細を決める予定であるため、現時点では決まっていない。広い方が良いという御意見と承ったので、今後の検討に生かしたい。

(上田委員)

- ・2階まで階段を上がるのはかなり体力が必要だと感じる。これから検討するということだが、エスカレーターの設置についても検討課題の一つと捉えて良いのか。

(事務局)

- ・エスカレーターの設置には面積を要するため、限られた面積を有効活用することを考えて、これまでエスカレーターの設置は検討してこなかった。

(上田委員)

- ・スペースが必要になるためエスカレーターの設置は難しいかもしれないが、なるべくエレベーターは一度に多くの人に乗ることができるようにしてほしい。今後、可能な限りの検討を

お願いしたい。

（秋山座長）

- ・車椅子で施設を利用される方もいるため、私も、少し広めのエレベーターを導入する方向性で検討する必要があると感じる。

（城市委員）

- ・12ページのゾーニングを見ると、築城前から浅野氏時代までがピンク、近現代が黄土色に塗られているが、これらが常設展示における総合展示に相当するという理解で良いか。

（事務局）

- ・総合展示は、広島県の歴史・文化と広島城の歴史を取り扱うものであり、ゾーニング図でいうと築城前から浅野氏時代まで、文化、近現代が総合展示に位置付けられる。

（城市委員）

- ・歴史系の博物館に多く見られる構成だが、実物資料だけでなく模型やレプリカ等も活用し、頻繁に大幅な展示替えを行わないという運用をするイメージで良いか。

（事務局）

- ・総合展示はある程度固定した展示を想定している。展示内容に沿ってどのような資料が展示できるかも踏まえながら、できる限り展示更新も行っていきたいと考えている。

（城市委員）

- ・東京の江戸東京博物館では寺子屋の様子を再現した展示もあるが、そういった再現展示はあるのか。

（事務局）

- ・再現展示としては、茶室の再現を想定している。そのほか、広島県の城下町のにぎわいを伝える資料として、広島城下絵屏風を活用したコーナー等も設けたいと考えている。

（城市委員）

- ・実物資料をずっと展示するわけにはいかないのでは、パネルや映像等になると思うが、どのような手法を採るかで予算がかなり変わってくると感じる。

（事務局）

- ・広島城下絵屏風は既に複製を作成しており、現在広島城には複製を展示しているが、広島城三の丸歴史館では、一定期間、実物を展示することも検討していきたいと考えている。

（城市委員）

- ・現時点ではどのような再現展示を行うかを決めていないという理解で良いか。

（事務局）

- ・ 固定的な展示コーナーは全体の展示ストーリーを踏まえた上で配置する必要があるため、来年度行う展示基本設計の中で決めていきたいと考えている。その前段階としてある程度ゾーニングイメージが固まっていると今後の作業が進めやすくなるため、今回はゾーニングのみを示している状況である。

（城市委員）

- ・ 文化の展示は複製等の展示に難があるため、定期的に展示資料が入れ替わるゾーンになるかと思う。以前の懇談会で上田委員がおっしゃっていたお茶道具の展示は文化のゾーンになるのか。

（事務局）

- ・ 現時点では具体的にどの場所かまでは決めていない。お茶道具の展示は茶室の再現とセットで行うという話もあったため、それが可能なスペースはどこかを今後の基本設計の中で検討していきたいと考えている。

（西村委員）

- ・ テーマ展示と企画展示について、展示替えが必要になるかと思うが、同じ周期で展示替えを行うのか。以前休館日がないという話も出ていたが、どこかで休館日は設けるのか。

（事務局）

- ・ 現在広島城では企画展示を年6回行っている。広島城三の丸歴史館でどのような規模の企画展をしていくかにもよるが、年数回開催するイメージである。展示替えについては必要な期間臨時休館で対応する予定である。

（西村委員）

- ・ 年末のみ休館という認識だったが、臨時休館を行う旨理解した。

（秋山座長）

- ・ 来年度、展示基本設計を行うに当たり、委員の皆様の御意見を出来る限り伺って来年度の設計に反映していきたいと考えているが、他に何かあるか。
- ・ 無いようなので、次は施設の外観イメージについて御意見、御質問をお願いしたい。

（金城一國齋委員）

- ・ 外観デザインは非常に重要である。事務局の説明を聞いて少し納得した部分もあるが、導入部分としてこの建物があり、二の丸、本丸と進むに当たって、導入部にこのデザインの建物が建つとどのような印象になるのだろうか心配になった。
- ・ 元々、藩主や武家の屋敷というイメージだったため、ふだん入れないような建物に入って、ふだん見ることができない貴重な資料を見るという、例を挙げると松江歴史館のようなイメージを持っていた。あるいは現代の建物なので、黒を基調とした近代的な建物か、そのどちらかだと思い描いていたこともあり、第一印象は正直意外だった。
- ・ 御米蔵をモチーフにしたデザインを3案提示していただいたが、ここに至るまで他の案はなか

ったのか。今回の懇談会でこの中からどれかを選ばなければならないのか。

(事務局)

- ・これまでの関連計画の中で「江戸時代後期の広島城下町の街道筋をイメージ」といった景観形成方針があるため、江戸時代の建物をデザインモチーフとすることを基本的な考え方に据えた。城郭建築物、武家屋敷も候補としては考えられるが、今回は再現建物を目指すわけではなく、二の丸復元建物のすぐ近くであることを踏まえ、城下町・広島の特徴や三の丸の来歴も検討した結果、御米蔵をモチーフにしてはどうかと考えた。しかし、御米蔵が絶対というわけではなく、今回提示した3案から選ぶことが必須というわけでもない。御米蔵ではない方が良いという意見も当然あり得ると考えており、幅広い議論をしていただき、方向性の示唆を頂ければと考えている。

(金城一國齋委員)

- ・この案はたたき台ということで承知した。私も柔軟に考えていきたい。

(上田委員)

- ・外観イメージは非常に大きい話だと思う。時間が限られていることは理解しているが、我々のような学芸や歴史の専門家だけで決めて良いものではないと感じる。建築のデザインについては他の方々の意見を伺うべきなのではないか。
- ・蔵のサイズとして五間十二間(60坪)、五間十五間(75坪)、五間二十四間(120坪)等があるが、一番大きな五間二十四間でも120坪である。スライド上で今回の施設は74m×25mという説明があったが、間で換算すると四十間十四間(560坪)になる。四十間、74mとなるとかなり長く、存在感のある白壁になる。ここまで大きいと、蔵のイメージにならないのではないか。二の丸との調和も難しいのではないかと感じる。蔵でないなら何が良いのかとなると、金城一國齋委員もおっしゃっていたように、武家屋敷あるいは和の雰囲気のある現代デザイン建築等が考えられると思う。もっと他の専門家の意見を伺ったほうが良いのではないか。

(秋山座長)

- ・実は私も完全に同意である。これを見たときに少しぎょっとしたというか、こういったものがあの場にできてしまうのかというのが第一印象であった。

(城市委員)

- ・和風の外観という方向性は、全体の景観との調和を考えても良いと思う。博物館の外観デザインはとても大事だという話だが、使用しやすさも重要である。多くのお客さんが来た場合、雨の日や夏の暑い日にもかかわらず、入口に行列ができてしまうこともあり得る。人の流れや動線と周辺との関係をどうするかも併せて考えた方が良い。
- ・美術館には建築そのものが一つの美術作品のような施設も多く、建築で評判になることもあるが、デザイン性を重視するあまり非常に使いづらくなったという声が現場から上がっている。展示のしやすさや順路が無視された建築になったり、資料の保存上ふさわしくない外光が入ったりする等の問題が発生しているという話が国立・県立レベルの博物館でも多くある。そうした事態を防ぐためには、まず博物館資料の保全や展示のしやすさを決めてから建築側に相談することが重要であり、今回の進め方は正しいと思う。

(上田委員)

- ・二の丸復元建物はどの程度の大きさなのか。

(事務局)

- ・二の丸復元建物の大きさが、西側の平櫓（やぐら）が12m、多聞櫓が67m、太鼓櫓が8m、合わせて87mである。

(上田委員)

- ・世界の中で平和を標ぼうする広島が、400年前に遡って広島のまちができた頃の天守を再現し、広く世界の方に見てもらおうというのは、世界的に非常に重要なことなのではないか。巖島神社の入口となる宮島口の再整備に当たっては、建築家の安藤忠雄氏、大阪府立大学の教授、観光庁の方々と私が委員となり、世界的なコンペを行った。今回の案件は時間がないことも理解しているが、世界的な事件があった広島で、その土地がスタートした場所の再整備をするというのは非常に大きな話であり、このメンバーだけで決めて良いことではないと感じる。世界的なことをやろうとしているのだという自負を持ち、もっと違う案を検討した方が良いのではないか。

(秋山座長)

- ・基本設計の進め方について確認だが、コンペ形式で提案を受けるという方式を想定しているのか。それとも一定の業者に委託するという形なのか。

(事務局)

- ・現時点ではコンペ形式は想定していない。頂いた御意見及び設計業者のノウハウを生かしながら進めていきたいと考えていた。

(西村委員)

- ・この分野に関しては専門外のため、私が申し上げることではないが、当初武家屋敷のようなイメージを抱いていたため今回の案は意外であった。城市先生がおっしゃっていたとおり、機能を重視した設計をしていただければと思う。現在広島県立文書館が入っている広島県情報プラザは無駄な空間が多く使いにくい空間であるため、展示や収蔵、研究の機能を十分に発揮できる建築設計を行ってほしいと考える。

(金城一國齋委員)

- ・視点を広げて、中央公園全体における三の丸歴史館の位置付けを考えることも重要ではないか。サッカースタジアムは何件か応募があり、最終的には3案から選ばれたと報道されていたが、広島を中心部をふかんした際、あの場所にどのような建物があればサッカースタジアムから広島城へと誘導できるのかを考える必要がある。若者はサッカー、高齢者は広島城ではなく、誰もがどちらにも行きたいと思える魅力的なものを作るためには、コンペを行うべきではないか。平和都市広島の復興のモデルとして広島城が再建され、その展示資料が全て三の丸歴史館に展示されると考えると、広く提案を募り、市民の代表が決めるというスタイルを取るべきだと感じる。市民のためのものなのか、誰が決めたのかという意見が出るのを避けるためにも、もう少し時間をかけて決めたほうが良い。

(秋山座長)

- ・なかなか難しい問題だと感じる。展示のゾーニングはこれまで議論を重ねてきたことの延長線上になるため、ある程度方向性を定めることができたが、外観となると建築やデザインの問題があるため、我々にとって荷が重いという印象がある。しかし事業を進めるためには、懇談会としての意見の集約をする必要があるため頭を悩ませている。
- ・15ページに「外観デザインの考え方」という文章があるが、こちらについては委員全体の合意が得られると思う。また城市委員がおっしゃっていた、博物館としての機能を十分に発揮できる建築でなければならないという意見も大方合意を得られるだろう。ただし、デザインについては方向性を決めることが難しいと感じている。基本的な考え方の文章に、博物館の機能を十分に発揮する施設とすること、中央公園における歴史ゾーンとして三の丸歴史館のデザインをどのように位置付けていくのかということを追加すれば、考え方としては合意を得られるのではないかと思う。この懇談会として言えるのはそこまでであり、御米蔵をモチーフとした建築デザインの是非についてはこの場で方向付けることは困難である。基本的な考え方を補強したものをこの懇談会での総意であるとするところまでが限界ではないか。

(事務局)

- ・御米蔵をモチーフとするかどうかは一旦おくとして、今回提案したイメージは3種類あるが、どこまで近代的な要素を盛り込むか等の観点で御意見を頂きたい。

(秋山座長)

- ・先ほどの説明にもあったとおり、再現建物を造るわけではないが、周囲の景観との調和や三の丸という場所の歴史性を踏まえて今回の提案があったのだと思う。そこにどれだけ近代的な要素を取り入れることがふさわしいかについて、御意見をお聞かせいただきたい。

(上田委員)

- ・コンペ形式はやはり時間的に厳しいのか。このままの案で進んでいくのは違うと感じる。時間に制約があるにしても、その中でできることを考える必要がある。御米蔵ではなく武家屋敷のイメージになるのかと思うが、再現建物を作るわけではないため、近代的な要素を取り入れたほうが良いだろう。しかし建築家やデザイナーの方から意見が出て初めて議論できるものであり、ここで決めることは難しい。時間的制約があるというが、なぜそこまで急ぐのかを教えてほしい。

(事務局)

- ・現在のスケジュールでは、令和4年度に建築と展示の基本設計、令和5年度に実施設計と、2か年で設計を行う予定としており、基本設計は一般競争入札で業者選定を行い、建築と展示をそれぞれ別業者に発注して同時並行で進めていくことを想定している。しかしコンペを行うことになると数か月の時間が必要になるため、全体のスケジュールがずれ込む可能性がでてくる。

(金城一國齋委員)

- ・以前の懇談会で他都市の展示収蔵施設の事例写真が示されていたが、全て館内の写真だったため外観が分からない。他施設の建物がどういったイメージなのかが分からないため、もし可能ならこの場で共有してほしい。そうでなければコメントは難しいと感じる。

(秋山座長)

- ・外観のイメージを今提示できるか。

(事務局)

- ・今御提示できる資料はない。

(秋山座長)

- ・松江歴史館は武家屋敷をイメージした建物であり、高知城歴史博物館はいわゆる近代的な建築デザインであったと記憶している。高知城歴史博物館は高知城に隣接しているとはいえ、追手門や天守に繋がっているわけではないため、周囲の景観との調和を重視する必要がなかったのではないかと思います。

(上田委員)

- ・事務局として時間的な制約もあり焦る気持ちも分かるが、この場で方針を決めるのは無理ではないかと思う。他の専門家が入った会議で議論する等、一度仕切り直した方が良いのではないか。

(事務局)

- ・この懇談会で一つの答えを導き出したいとは思っていない。今後のスケジュールを含めて検討する上で、様々な御意見を頂いたので、御意見を踏まえて作業を進め、今後個別協議という形になるかもしれないが、相談しながら進めていきたいと考えている。

(秋山座長)

- ・先ほど一般競争入札という話があったが、実施される時期は来年度のいつになるのか。

(事務局)

- ・契約事務と実作業を合わせて1年で行う必要があるため、第一四半期中に契約を行いたいと考えている。早期に契約して設計作業の時間を十分に取れるようなスケジュールを想定している。

(秋山座長)

- ・一般競争入札を実施する際は、15ページのような基本的な考え方を示し、応募してもらう形になる。年度が変わってすぐに発注できるようにするためには、それまでに基本的な考え方を固める必要があると思う。その内容について懇談会を開催するのは難しいかもしれないが、事務局案を作成して懇談会委員に意見聴取し、意見を反映するという進め方はどうか。

(事務局)

- ・実際の発注資料になるとかなり事務的な内容になるため、基本的な考え方をどうするかを皆様に御確認いただければと思う。

(秋山座長)

- ・ 本日の議論を踏まえた事務局案を4月の早い段階で固めて懇談会メンバーに示し、各委員が意見を提出するという流れで進めてよいか。

(事務局)

- ・ どこまでのことができるかは分からないが、個別にやりとりを行って、御意見を反映することは可能と思う。

(上田委員)

- ・ 事務局と全く異なることを言ってしまう恐縮だが、非常に重要な話であると思うため、個別に意見を聞いて済むものではないと感じる。スケジュールの制約があることは理解しているが、会議を開催して合意を得るべきではないか。

(事務局)

- ・ 周辺との調和や機能性を考える上で建築デザインが重要であることや、都市の再構築という視点でデザインを考えることが大切であることは御指摘のとおりである。当初コンペ方式ではなく一般競争入札を行う想定で、本日の議論の内容を踏まえ話をしようと思っていたが、本日議論する中で、専門的な知識がない者が方針を示すのは難しいという御意見や、今回提案のデザインには無理があるという御意見があった。そのため今後の進め方として、庁内の都市デザインの部署とも相談し、専門家に御意見をいただくことが可能かなど検討する。その結果を踏まえ、懇談会を開催できるかどうかは分からないが、進め方も含めて事務局としての考え方を御説明する機会を設けたいと考えている。

(秋山座長)

- ・ 今日の議論を踏まえて、専門家の意見を聞いた上で基本的な考え方を定め、可能であれば個別説明ではなく懇談会を来年度の早い時期に開催し、しっかりと議論を行い、将来誤った方向に進まないようにしたいと思うが、どうか。

(上田委員)

- ・ 事務局は個別説明、座長は懇談会を開催するということで、意見が異なっている。

(秋山座長)

- ・ 事務局の発言を受けて、座長としての希望を述べた。

(上田委員)

- ・ 同感である。他の方の意見も聞いてほしい。

(金城一國齋委員)

- ・ 私も同感である。確かに都市デザインの専門家の意見も必要であり、我々の意見を更に加えた上で最終案がまとめられたらと思う。

(城市委員)

- ・私も同意である。

(西村委員)

- ・同意する。

(秋山座長)

- ・委員全員の意見が一致しているため、是非そのような形で来年度早々に懇談会を開催していただきたいと思う。
- ・その他はないか。ないようであれば、本日の議事は終了する。
最後に、事務局から連絡等があればお願いします。

(事務局)

- ・本日いただいた御意見を参考に、広島城三の丸歴史館の展示基本設計の作業を進める。
- ・今後の展示設計の進め方についてだが、広島城三の丸歴史館の展示に関して市民の皆様から意見を募集する機会を設けたいと考えている。
- ・市民の意見も踏まえつつ、展示基本設計の作業を進めていくため、夏以降の懇談会で展示設計の内容を提示していきたい。
- ・建築設計については、本日いただいた御意見を踏まえ、スケジュールを含めた進め方を整理し、委員の皆様にご相談させていただきたい。

(秋山座長)

- ・それでは、これで第4回広島城の展示整備に関する懇談会を終了する。ありがとうございました。